

床面積500平方分の新工場を稼働させたが、新需要に対応してライン増設も検討する。

エコカー向けに拡販する絶縁手袋はスチレン系

エラストマー層の上にポリウレタン樹脂層を重ねた構造で薄型なのが特徴。中村社長は「他社の電気絶縁手袋は厚さ1センチ程度の場合が多いが、

当社の場合は0.7センチ以下。従来の電気用ゴム手袋では難しかった指先での細かな作業にも対応でき、耐油性などに優れる」という。

柔軟に対応し、閑散期には従業員を溶接やプレスなどの工程に振り分けられるようにすることも検討する。

エレベーター開閉装置

セル生産に移行

日本ゲージ

【水戸】日本ゲージ（茨城県茨城町、山野内十一郎社長、029・292・2511）は、従業員5人による流れ作業で

ラクている。ある樹脂の安全への取り組みを説明。

研究所全が疑問視された時に「製品が壊れる時、お客さまに迷惑がかからないことを確認する試みをつくる」と決意。苦難の末に都内のガラス職人との出会い、曲線の組み合わせ、曲線のあ

心の価値探る

間にガラスの哺乳瓶の開発に成功した経緯などを話した。

科医 福山氏は日立のモノづくり精神と冷蔵庫事業を紹介しながら安全

「安全と安全は異なる」など安心と安全の関係をについて議論を深めた。

グループ討論では

安全確保に力を入れて

二次電池の技術

勉強会を開催

金型工業会西部支部

日本金型工業会西部支部（大阪市中央区、上田陽造支部長、06・6271・7939）は、

市中央区で開いた。支部会員が専門家から最新の産業・技術動向を学ぶ勉強会で、燃料電池と二次電池をテーマに約40人が受講した。参加者の一人は「将来の産業を変える二次電池の話に夢を感

部品を組み付けていたが、作業員の習熟度にバラつきがあり、作業工程の流れが悪くなっていた。4月末にも生産ラインを変更し、一人ですべて部品を組み付けるセル生産に移行する。エレベーターの生産量の変動に

日本ゲージは、エレベーターのカゴなどの大物の板金・溶接が得意分野。資本金4000万円で、従業員85人。売上高の多くがエレベーター関連の部品加工だが、需要は減少している。従業員の多能工化を進めることで、需要の変動に対応し、収益確保を目指す。